

◆ 平成 24 年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	学科長 ワーキング委員 高等教育推進部 門委員	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの内容検討・見直しの継続：ワーキングおよび毎月学科会 平成 27 年度以降の入学試験について，文部科学省の指示に照らして科目や配点を見直す：学科入試委員会および毎月学科会 ファシリテーションを中心とするグループワークの研修：平成 25 年 2 月 5 日，19 日，22 日 平成 25 年 3 月 7 日 	1212 会議室およびバーニングコモンズ 等	<p>テーマ：カリキュラムに関する見直し，入試に関する見直しの継続 参加者数：学科教員（全員） 簡単な状況情報</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの内容検討・見直しの継続については，改編を睨んだ新たなポリシーや枠組みまで提案されたが，将来的な見通しが着かない状況から，現状維持とすることとなった。 平成 27 年度以降の入学試験については，数学や理科の科目採択や配点の変更などを検討したが，上記と同様な理由で，現状維持とすることとなった。国語や外国語（英語）の新指導要領に基づく科目選択なども検討した。 ファシリテーションを中心とするグループワークの研修については，カリキュラムマップや履修モデルを題材に，理想的な会議のあり方やモデル作成の基本的な作業のあり方を研修した。外部講師のアドバイスが有効であった。
人間文化学部 健康科学科	栢下 淳 中瀬古 哲	9 月 18 日（木），10 月 9 日（火），6 月 5 日（火），11 月 13 日（火），12 月 10 日（火），平成 25 年 1 月 8 日（火）	1215 会議室	<p>テーマ：実験系学科における「教育の質保障」と「SNE」の統一 参加者数：15～19 名 簡単な状況情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を抱えた学生の状況をスタッフ全員で共有（チームの守秘義務） 相談室，教学課，チューターの連携の必要性（連携無しに対応は不可能） 相談室，教学課，チューターの連携の難しさ（共有・交流する情報の質と範囲） 学生への配慮と学士力の質保障の関係をどうとらえれば良いのか。 国家試験の対策は，ある意味で「生活指導」の側面を有しており，配慮と質保障の統一の姿と考えられる。 クラスとしての国家試験への取り組みが，4 年生の横の関係を育む機能をもっている。（研究室への囲い込みや卒論担当教員とのトラブルを回避する機能を有している）
経営情報学部 経営学科	平野 実	<ul style="list-style-type: none"> 日経テスト：10 月 28 日 TOEIC-IP：平成 25 年 2 月 1 日 	研究室，演習室，学生の自宅学習等	<p>テーマ：日経テスト，TOEIC 等を用いたグローバルマネジメント人材育成への取り組み 参加者数：経営学科（西脇ゼミ，栗島ゼミ，村上ゼミ，平野ゼミ）計 26 名受験 簡単な状況報告</p> <p>(1) 日経テストの結果 第 9 回実績：団体賞ゼミ部門 平野ゼミ 第 7 位，栗島ゼミ 第 8 位，西脇ゼミ 16 位，村上ゼミ 27 位（76 チーム中）</p> <p>(2) TOEIC の結果 各ゼミの平均スコア【平野ゼミ 480 点（7 名受験），西脇ゼミ 456 点（7 名受験），栗島ゼミ 423 点（6 名受験），村上ゼミ 360 点（6 名受験）：個人最高点 775 点，全体の平均スコア 432.5 点（26 名受験）】</p>

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
	山中 道代	<p>①FD研修会 12月27日(木) 13:15~16:15</p> <p>②伝達講習 1)視察 平成25年2月19日(火) 2)伝達講習 平成25年3月12日(火)</p>	<p>①保健福祉学部 三原地域連 携センター</p> <p>② 1) 那覇市医師 会那覇看護 専門学校 2) 3305 講義室</p>	<p>テーマ：学生の学びを引き出す技法を身につけるための取り組み 参加者数：FD研修会 23名，視察 3名，伝達講習 21名 簡単な状況報告</p> <p>①FD研修会 講師：九州大学大学院総合新領域学府客員准教授 加留部貴行先生 テーマ：「ケースカンファレンスを活性化するために」 会議という場で何をを目指すのか，ファシリテーションとは，対話の基本，可視化の基本について 講義が行われ，その内容をふまえて，総合実践ワークとしてグループワークを行った。参加者の満 足度は高く，今後の教育に活用できる内容であった。</p> <p>②シミュレーションの現場の視察及び伝達講習 阿部先生が那覇看護専門学校で行っているシミュレーション教育の現場を視察した。国家試験終 了後の3年次生を対象に，「多重課題シミュレーション」と「技術トレーニング（採血，点滴ライン 作成）」が行われていた。十分に準備されたデブリーフィングにより学生の学びが深まり，行動が変 化していく様子を実際に見ることができた。 本学でのシミュレーション教育に活かすため，視察した内容について学内で伝達講習を行い，学 科内で内容の共有を図った。</p>
保健福祉学部 看護学科	松森 直美	<p>①12月12日(水) 10:00~12:00</p>	三原地域連携セ ンター	<p>テーマ：看護学科教育課程の継続評価と将来構想に関する検討 講演会 参加者数：29名 簡単な状況報告</p> <p>①講演会 テーマ：看護教育の現状と課題 講師：新道幸恵先生（NPO 法人看護アカデミア幸代表，元日本赤十字広島看護大学学長） 看護の社会状況，看護教育の現状などについて講義され，看護教育の将来像について考えるための 機会となった。質疑応答では活発な意見交換をした。</p> <p>②在校生に対する意識調査 看護学科の教育課程に関する質問紙調査を，平成25年1月~2月にかけて看護学科在校生全学生 （245名）を対象に実施した。調査内容は，看護学科の教育方法，指導体制，入学制度，卒業教育 に関してなどであり，看護学科教育課程検討会で議論を重ね決定した。回収率は95.95%であった。 現在結果を集計し，分析中である。</p> <p>③文献による看護教育法の検討 教育方法に関する文献により，現在の教育内容を見直し今後の改善策について検討する予定。</p>

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 理学療法学科	大塚 彰	学科会議時の討議・検討： 毎週水曜日・4時限目 勉強会：月1回第2水曜日・ 4時限目	2406 会議室	<p>テーマ：臨床実習中の学生の学習支援および学内での学習の進行に問題を抱える学生の支援／教育方法論に関する勉強会</p> <p>参加者数：理学療法学科教員全員（12名）、勉強会の場合は他学科よりの参加者を認めている。</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>① 学外における臨床実習中の学生の学習支援については、前期ですでに3回以上欠席している学生について、学科内教員よりの報告→チューターによる状況把握→学科での対応を検討・実施した。必要に応じてチューターが個別面談あるいは保護者との三者面談を実施した。</p> <p>② 学外における臨床実習中の学生の学習支援については、4年生の「総合臨床実習Ⅰ」において、問題のあったケース2件について検討し、教員による早期実習地訪問指導あるいはチューターによる複数回の実習地訪問指導を実施した。</p> <p>③ 教育に関わる勉強会は以下の内容で2回開催した。</p> <p>1) 5月23日：理学療法教育における屋根瓦教育の試み（梅井助教）</p> <p>2) 6月16日：国家試験の動向と対策（大田尾助教）</p>
保健福祉学部 作業療法学科	土田 玲子	平成25年3月27日（水） 13:00～14:00	4102 講義室	<p>テーマ：広島大学における障害者雇用と特別支援教育</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>講師：落合俊朗</p> <p>障害者雇用に関する広島大学の取り組みについて、その経過と効果、課題について学び、本大学における障害を持つ方々との共生社会に向けた学生教育の在り方について学んだ。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害 学科	城本 修	<p>① 学生支援会議および毎月の学科会議</p> <p>② 学科セミナーの開催</p> <p>a 9月20日（木） 12：15～</p> <p>b 10月30日（火） 12：15～</p> <p>c 11月27日（火） 12：10～13：00</p> <p>d 12月18日（火） 12：10～</p> <p>e 平成25年1月24日（木） 12：10～</p>	1309 講 習 室 1310 講 習 室	<p>テーマ：①学生支援の充実 ②専門・関連分野に関する知識の充実</p> <p>参加者数：コミュニケーション障害学科教員13～17名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>① 学生 支援にかかわる情報の共有をはかった。個別の事例への対応のほか、実習時の対応、などが中心となった。</p> <p>② それぞれの教員の専門領域での研究の紹介があり、いずれも、参加教員の学びの機会となった。</p> <p><内容></p> <p>a 拡大・代替コミュニケーション国際学会（ISAAC）2012 情報 ～コミュニケーション支援に活用できそうなアプリの紹介を中心に～</p> <p>b 失語症者の非言語性意味判断課題成績</p> <p>c 大学での聴覚障害学生支援</p> <p>d ST養成校連絡協議会 中国・四国ブロック研修会報告 高知リハ学院 山本双一氏による講習『最近の学生について思うところ』の伝達報告</p> <p>e 統計検定における効果量：もはや有意差だけではダメ！？</p>

実子主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	<p>(1) ①a 11月14日 10:40~12:10 b 12月19日 10:40~12:10 c 平成25年2月19日 10:40~12:10</p> <p>②a 11月14日 14:40~16:20 b 12月12日 14:40~16:35</p> <p>③ 12月12日 16:45~17:15</p> <p>④a 平成25年2月19日 13:30~14:50 b 平成25年2月19日 15:00~16:20</p> <p>⑤ 12月1日 13:00~ 12月2日 11:30</p> <p>(2)①a 10月10日 10:40~12:10 b 10月24日 14:40~16:10 c 12月6日 10:40~12:10 d 平成25年3月21日 10:40~12:10</p> <p>②12月6日 14:40~16:20</p> <p>③12月6日 16:20~17:50</p> <p>④平成25年3月21日 13:30~15:20</p> <p>(3) 平成25年3月2日 9:30~15:00</p> <p>(4)a 12月19日 14:40~16:10 b 平成25年3月14日</p>	三原キャンパス 講義室, 会議室	<p>テーマ：学科FDの取り組みの体系化に向けての準備作業 参加者数</p> <p>(1) 社会福祉養成に向けた実習教育に関する教育研究事業 ①社会福祉士実習教育会議 a 第1回(参加者数 担当教員7名) b 第2回(参加者数 担当教員11名) c 第3回(参加者数 担当教員11名)</p> <p>②社会福祉士実習教育報告会 a 2年生実習報告会(参加者数 担当教員11名, 指導者3名) b 3年生実習報告会(担当教員11名, 指導者9名)</p> <p>③社会福祉士実習教育協議会 3年実習意見交換会(参加者数 担当教員11名, 指導者9名)</p> <p>④社会福祉実習指導者連絡協議会 a 2年生(参加者数 担当教員11名, 指導者5名) b 3年生(参加者数 担当教員11名, 指導者13名)</p> <p>⑤ 国社会福祉士養成教育協議会 社会福祉士養成校教会 中四国ブロックセミナー 参加者数… 100人(大学教員91人, 実習施設職員8人, 学生1人)</p> <p>(2) 精神保健福祉士養成に向けた実習教育に関する教育研究事業 ①精神保健福祉士実習教育会議 a 第1回(参加者数 担当教員5名) b 第2回(参加者数 担当教員5名) c 第3回(参加者数 担当教員5名) d 第4回(参加者数 担当教員7名)</p> <p>②精神保健福祉士実習教育意見交換会 実習意見交換会(参加者数 担当教員5名, 指導者11名)</p> <p>③精神保健福祉士実習教育報告会 実習報告会(参加者数 担当教員8名, 指導者11名, 履修学生 約80名程度)</p> <p>④精神保健福祉実習指導者連絡協議会 実習連絡協議会(参加者数 担当教員8名, 指導者10名)</p> <p>(3) 地域の障害者との交流会を中心としたボランティア教育事業 こころネットみはら(参加者数 担当教員1名, 参加者400名)</p> <p>(4) 福祉士養成科目の教育事業の体系化推進(人間福祉学科ピアレビュー事業準備) a 第1回(参加者数 教員約20名) b 第2回(参加者数 教員約20名)</p>

		14 : 40～16 : 10		<p>簡単な状況報告</p> <p>平成 24 年度後期，人間福祉学科では，(1) 社会福祉士・精神保健福祉士の実習教育事業，(2) ボランティア教育事業，(3) 教育事業ピアレビュー事業の設置準備，という大きく 3 つの事業に取り組んだ。</p> <p>(1) の実習教育事業では，社会福祉士・精神保健福祉士ともに担当教員間で現在の実習状況や今後の進め方の検討が行われた。社会福祉士については，全国社会福祉士養成校協会から推奨された実習教育のガイドラインの導入に向けての検討が行われた。精神保健福祉士養成については全国 10 大学の実習教育調査が行われ，現在，データの分析中である。また，本年度は中四国の社会福祉士養成校の実習担当者が本学に集まり，今後の実習教育のあり方についての研修が行われた。</p> <p>ボランティア教育事業では，三原市社会福祉協議会および三原市保健福祉課とともに，地域の精神科医療機関や障害福祉サービス事業所を利用している精神障害者との地域交流会（まつり）が企画され，実施された。6 年の継続事業であり，本学学生も様々な企画に主導的に参加している。ボランティア教育効果として，学生が地域の障害者との交流を経て，障害者への偏見を解消するとともに，社会的な援助の必要性を実感できるようになったと報告された。来年度も継続して取り組む予定である。</p> <p>FD 活動促進事業であるピアレビュー評価事業については所期の目標が達成できた。</p>
--	--	-----------------	--	--